

古事類苑

歳時部十

年始祝二

幕府年始祝

〔年中定例記〕殿中從正月十二月迄御對面御祝已下之事、

一 おもてむき御對面過て、内々の御祝まゐる、次に赤きもちゐ、白き菱の餅を、やがて重ねてちぎりて、角之折敷にする、少き土器にあめを入れて添て、御四方にすわりて參候、此餅を、御老女うやかれ候、

〔正月祝儀飾之繪圖〕

一 おもてむきの御祝すぎて、内之御祝參候は、赤き餅、まろきひしの餅をかさねて、角のをしきに居、ちいさき土器にあめを入れて、御四方に居て參る、此餅則御前にてやかれ候、此次に御參候、是より

次第次第に御祝參なり、

〔年中恒例記〕年中御對面并雜事少々

一 内儀にて五ヶ日參る御祝の三獻めに、御嘉例にて必なすびの坪付、ひともじ、さこのこさし、此

三色昔より參也、子細在之云々、進士說、略

中

一 正月五ヶ日、式三獻よりさきに、昆布、あはび、か

